

# しみずの広場

第3号 平成30年5月7日

## ☆ 子供たちの「やる気」を出させるのは大人の役割です ☆

教育活動において、子どもたち一人一人が様々な「目標」や「希望」「ねがい」をもって活動しています。本校では一人一人に目標をもたせるとともに、学級の目標を学級会で話し合い決めています。ご家庭でも、学習やスポーツにおいて子どもに「目標」を立てさせることが多いのではないのでしょうか。ある教育雑誌に、『目標設定を間違えると、子どもの意欲をかえって低下させてしまうこともある。』という内容が書かれていました。目標を立てることは、やる気を高めるためにとても有効な方法です。しかし、それ事態がやる気を高めるわけではありません。自分が立てた目標が達成できたとき初めて、自己有能感が高まり、活動へのやる気となります。反対に、目標設定に失敗し目標を達成することができなければ、自己有能感が喪失し、子どもの意欲を低下させる可能性があるということです。『子どものやる気を高めたいのなら、達成できそうな小さな目標を設定すること。それを達成して自信をたくさんつけることが、大きな目標を達成させるための第一歩になります。』と提唱しています。

5月19日(土)に運動会が開催されます。学校では運動会に向けた練習と高学年の児童を中心とした係活動を設定し、一人一人に役割をもたせ成長を見守っています。他人から与えられた目標ではなく自分で設定した目標の方が、達成しようとする責任感が生まれてきます。子どもに目標を与えるのではなく、子どもの立てる目標を見て聞いてあげることが「やる気」につながっていきます。そして、到達が困難すぎる目標を設定している時には、子どもの現状に合わせて調整してあげることが親の役割であり、子どもたちにとって一番の励ましになってくることと思われます。

